



## 異なる文化や価値観の間を仲介する - 留学生の国の「食」をプレゼンテーション -

外国語教育センター 准教授 佐藤 智照

本学の学生と留学生が協働し、各国の食文化をプレゼンテーションする企画「異文化食の架け橋プロジェクト『世界を味わう一皿』」グランプリを開催しました。審査委員（本学教員と島根大学生協同組合職員）とオーディエンスの投票によって選ばれたメニューを実際に島根大学の食堂で提供しました。

本プロジェクトは、学生が留学生の出身国の食文化を理解し、それを学内の学生や教職員に紹介する活動を通じて、異なる文化や価値観を他者に伝える「仲介（mediation）」の経験を積むことを目的として実施したものです。現代社会では、異なる文化や価値観を持つ人々と協働する機会が増えています。学生たちが将来このような多様化する社会で活躍していくためには、言語理解やコミュニケーション能力、異文化理解能力に加え、自国および他国の文化や情報を第三者に分かりやすく伝え、相互理解を促進する「仲介者（Mediator）」としての意識と、それを実行する能力が求められます。島根大学生協同組合の協力により、大学食堂という実生活の環境で大規模な「文化の仲介」を体験できたことは、学生にとって非常に貴重な学びとなりました。

本プロジェクトは、文化的多様性の尊重や包摂の促進、多様な主体の協働という観点から教育的・社会的意義を有しています。また、SDGsの目標10「人や国の不平等をなくそう」、目標16「平和と公正をすべての人に」、目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」などに貢献する活動です。多様な文化や価値観を理解し、尊重しながら協働する経験は、学生たちが持続可能で包摂的な社会の形成に参画する力を育むことにつながります。

